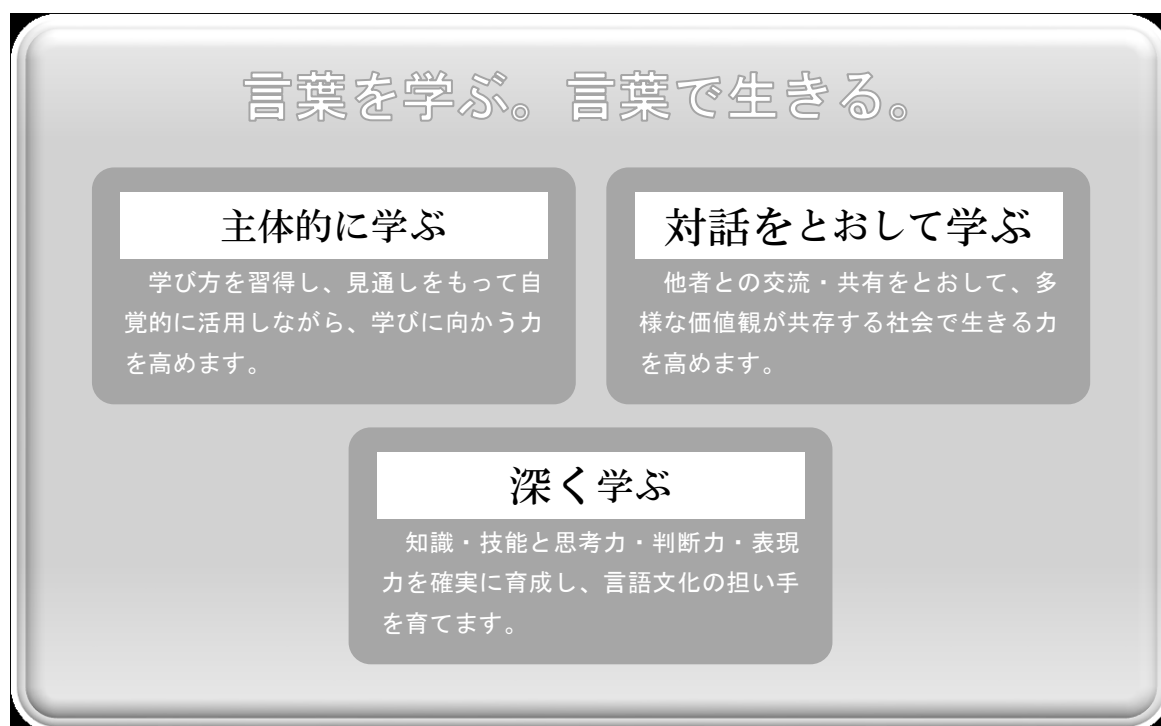


# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-201	高等学校	国語科	文学国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	文国 015-902	新 文学国語 改訂版		

## 1. 編修の基本方針



この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、選択科目としての性格や特色を意識するとともに、共通必履修科目において育成された能力を基盤として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の関連する内容を発展させ、育成を目指す資質・能力を確かめながら、主体的に、対話をとおして、深く学ぶことができるよう、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能力

が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

## ② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もともと基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

## ③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという行為は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、表現のための学習と理解のための学習とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。そのため、この教科書では、表現と理解を結びつけた独自の課題（＝学習の場）を設定することで、生徒たちの主体的な学習活動を促し、言語能力を総合的に高められるよう配慮しました。また、内向的な学びに向かいがちな学習のあり方に対する反省を踏まえ、自分の意見や考えの積極的な発信や他者との協働的な活動をとおして、開かれた個性、広範な教養が育まれることを目指しました。

## ④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいるどる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題の設定についても格別の配慮をしました。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭詩 未確認飛行物体	詩を通して豊かな言葉の世界にふれ、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した。(第一号)	表紙 2～2
第1単元 文学の言葉を感じ取る	文学の言葉を感じ取り、言葉の響きを味わったり、「虹」をめぐる発想の展開を捉えたりすることを通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した。(第一号)	15～24
第2単元 解釈の多様性を楽しむ	文学作品の解釈の多様性を楽しむ中で、人間存在とは何か、自然と人間との関係や人間の特徴を考えることを通して、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した。(第四号)	25～50
表現プラザ1 みんなでつながりレー小説	さまざまな視点から物語をつくることを通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第五号)	51～56
第3単元 心情の表現を捉える	文学作品における心情の表現を捉え、自他の「心」というものについて考えることを通して、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した。(第二号)	57～78
第4単元 作品のねらいを読み解く	「らしさ」についてふれた文章など、社会に対する批評性をもった作品を読み、考えを深めることを通して、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第三号)	79～102
表現プラザ2 想像からの語り	詩を心情の語りに書き換えることを通して、豊かな言葉の世界にふれ、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した。(第一号)	103～110
第5単元 文学の想像力を捉える	寓意的作品を読み、近代における「自己」や「自由」、「社会」について考えることを通して、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した。(第四号)	111～134
第6単元 近代の文章の価値を考える	韻文や現代の言葉とは異なる文語文に親しむことを通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第五号)	135～156
表現プラザ3 現代に甦る歌物語	和歌の理解をふまえ、歌物語をつくることを通して、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した。(第二号)	157～162
第7単元 歴史の語り方について考える	歴史が物語化された文章を読み、できごとや登場人物の描かれ方について考えることを通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第五号)	163～188

表現プラザ 4 誘惑する書評	人物像や作品観を深める文章を書き、交流することを通して、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した。(第二号)。	189～194
第 8 単元 表現の意味を捉え直す	一人称小説に描かれた「私」の心情・思考を読み取り、人間の心や孤独、通じ合うことなどについて考えを深めることを通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した。(第一号)	195～244
表現プラザ 5 表現の宝さがし	短歌・俳句の推敲や創作を通して、豊かな言葉の世界にふれ、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した。(第一号)	245～250
第 9 単元 言語文化の可能性を追求する	古典や現代のメディアミックス作品などを手がかりに、自己と他者との関わりについて考えを深めることを通して、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第三号)	251～294
表現プラザ 6 言葉でスケッチ	五感で感じたことを言語に表現することを通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した。(第一号・第二号)	295～300
第 10 単元 文学の普遍性を探究する	時代や国境を越えて親しまれている作品を読むことを通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第五号)	301～340

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### 全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

#### カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

#### 環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

#### その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。



# 言葉と文化の担い手として学ぶ

## ④ 多彩なメディアと教材群 一言語文化の中の文学国語

・人間や社会、文学について考えを深めるとともに、生涯にわたって文学にふれる意欲を養うことを目指しています。定評ある作品を基軸としつつ、現代的な話題の文章をバランスよく配置しています。また、人間の普遍的な心情を豊かに表現した作品として、古典作品の作家による訳や、翻訳作品、文学評論などを掲載し、さまざまな角度から文学にふれることができるよう配慮しています。

[教材例] **古典文学**「源氏物語」角田光代訳と原文、「竹取物語」森見登美彦訳と原文、「鴻門の会」大木康訳と書き下し文/**翻訳文学**「掟の門」カフカ・池内紀訳/**評論**「花山天皇の退位」永井路子、「物語もっと深読み教室」宮川健郎/**書評**小川洋子による「たけくらべ」書評


- ・現代の作家によって翻案された古典作品を、古典の原文とともに掲載し、適宜「訳者の言葉」を掲載することで、古典の現代的な意義を考えるための入口を設けています。
- ・「参考」には、教材に関連する文章や、マンガなどのメディアを掲載し、比べ読みや重ね読みを充実させています。他の作品とあわせて読むことで、思考力と表現力の育成を期しています。

## ⑤ 書く力の育成・向上 一読者を意識し、創造的に文学に向き合う

- ・「表現プラザ1～6」では、創作、批評、推敲、共同制作など、多様な活動が段階的に行えます。限られた時間で効果的に行えるように、学習活動の流れを端的に明示し、その補助となる「書き方のポイント」と豊富な作品例を示しています。
- ・第10単元「小論文を書く」では、文学について自ら課題を設定し、小論文を書く活動を設定することで、主体的・創造的に文学に向き合いながら、書く力の育成・向上をはかっています。内容や目的に応じて「調査・研究型」「意見・主張型」「企画・提案型」に書き分け、生涯にわたって表現する力や意欲を培います。

## ⑥ 生涯にわたる読書 一言語文化の継承・発展を目指して

- ・各単元末には、単元で取りあげた作品の書き手による、書き下ろしの「読書案内」や、単元で取りあげた作品に関連のある書籍を集めた「ブックガイド」を掲載し、本を媒介とした豊かな言語文化にふれることを目指しています。
- ・「資料編」には、「探究のためのブックガイド」を設けています。



角田光代  
かくだみつとむ

一九六七（昭和四二）年。小説家、児童文学作家、翻訳家、神奈川県生まれ。作品に「八日目の霧」、「対岸の彼女」などがある。本文は『日本文学全集04』（二〇一七年）による。

**★ 訳者の言葉**

角田光代

長編小説として「源氏物語」を読もうとすると、なんとなく受験勉強臭がしてくる。というのはあまりにも個人的な感想すぎるかもしれないけれど、古典文学ファンならいざ知らず、そうでない人間にとっては「読むぞ」というひとつの覚悟があるのはたしかだと思ふ。でもきつと、長編小説といくらえかたでなければ浮かび上がってこないものがある。そしてもしかし、ある程度短期間でウィットと読まないといけないのではないか。つまり何年もかけて丹念に読むのではなくて（そういう読みかたにはそういう読みかたでしか得られないものがある一方で）、物語世界を駆け抜けるみたい読んだほうが、つかまえるすいものもきつとある。そんなふうにして、読みやすさをまず優先した。敬語や謙譲語の使いかたによって登場人物たちの身分の微妙な差や関係性がわかるという、この作品の特徴的なひとつのおもしろさは、思いっきり削ってしまった。ともかくばいっと駆け抜ける。

▲「源氏物語」の訳文のうしろには、角田光代による「訳者の言葉」を掲載

**参考** 『栄花物語』——花山院の出家 編集委員会 訳

次の文章は、「大鏡」の「花山天皇の退位」と同じ場面を描いた『栄花物語』の訳文である。本文を読み、永井路子の主張と異なる点や異なる点について考察しよう。

弘徽殿女御（低子）がお亡くなりになるという悲しいことがあったが、いつの間にか寛和二（九八六）年になった。世間は正月からなんとなく穏やかでなく、さまざまな怪異現象が起こって、宮中でも物忌みがしばしば行われた。また、どういふ時世だというのだろうか、人々が次々に道心を起こして出家したという噂がよく聞こえてきた。

これを花山天皇もお聞きになり、弘徽殿女御とはかなりの御間柄をお嘆きになり、「ああ、弘徽殿はどれほど罪が深かったのか。身ごもったままでお亡くなりになる人は、罪が深いと聞いている、なんとかして私がその供養をしたいものだ。」と、思い乱れなざることがあったようである。

▲「栄花物語」の訳（「大鏡」に関する評論の「参考」教材）

**課題**

グループでリレー形式の小説（リレー小説）を書いて、相互に感想を交流しよう。

**活動方法**

グループで一つの作品を書き継いで、リレー小説を作ろう。前の人までが書いた登場人物やできごとを受けつつ、その次の人がさらに続きを書きやすくなるような「つながり」を意識して、みんなで楽しい創作活動をしよう。

①ワンポイント・アドバイス

ここでは、全体を五つの部分に分け、五人が順々に執筆を担当する。おおよそ次のような流れを想定する。

起 物語の始まりで、新しい人物が登場し、場面を設定される。（4分）

承 登場人物や場面を掘り下げる。（2分）

転1 新しいできごとが起こる。（2分）

転2 転1のできごとがさらに展開する。（2分）

結 登場人物やできごとを終結させる。（2分）

▲「表現プラザ」では活動方法やポイントを丁寧に解説

## 2. 対照表

単元	身につけたい言葉の力	図書の構成・内容 [教材名]	学習指導要領の内容	該当箇所 (ページ)	配 当 時 数	
I 部	詩 巻頭	未確認飛行物体 (入沢康夫)		表紙 2~2		
	1 文学の言葉 を感じ取る	言葉の響きを味わう	二十億光年の孤独 (谷川俊太郎)	●読ア 構造と内容の把握 ◆言葉ア 言葉の働き	16~17	読 6
		発想の展開を捉える	虹の雌雄 (蜂飼耳)		18~22	
		コラム	「にじ」をめぐる言語文化誌		23	
	2 解釈の多様性を 楽しむ	さまざまな読み方を考える	予感 (青山七恵)	●読エ 精査・解釈 ◆言語文化イ 読書	26~31	読 8
		読みの広がりを追う	雉始雛 (絲山秋子)		32~46	
			参考 近・現代の短歌 いつくしき… (石川不二子) 為せしより… (春日井健) とんかつ屋さんで… (佐藤弓生) 草原を… (服部真里子) 近・現代の俳句 雛祭る… (正岡子規) 夫婦の夜… (対馬康子) 亡き友の… (高柳克弘) 臘梅を… (山田みづえ)		47~48	
			コラム		浦島太郎、空に舞う	
	1 表現プラザ	読み手に興味をもたせる構成 や展開を工夫する	みんなでつながりレー小説 和太郎さんと牛 (新美南吉)	○書イ 構成の検討 [言語活動] エ 書き継いで作品作成 ◆言語文化イ 読書	51~55	書 4
			表現の扉をひらく1 自分のなかに「語り手」をつくる		56	
	3 心情の表現を捉 える	できごとと心情の関係を捉える	山月記 (中島敦)	●読カ 考えの形成・共有 ◆言葉イ 語彙	58~71	読 10
		象徴を読み解く	掟の門 (カフカ/池内紀 訳)		72~76	
		コラム	虫に小鳥に蚕に虎に……変身の話		77	
	4 作品のねら いを読み解く	作品の批評性を読み取る	少年という名前のメカ (松田青子)	●読イ 精査・解釈 [言語活動] ア 書評や議論 イ 論述や 討論 ◆言葉エ 表現の技法	80~89	読 10
		作品の表現を捉える	青が消える (村上春樹)		90~100	
コラム		作品の言葉を受け止める	101			
2 表現プラザ	心情の語り方を工夫する	想像からの語り 【詩】 夕焼け (吉野弘) / 売炭翁 (白居易)	○書ア 題材の設定・情報の 収集・内容の検討 [言語活動] イ 書き換え ◆言葉ア 言葉の働き	103~109	書 4	
		表現の扉をひらく2 タイトルは、書く「わたし」をはげます		110		

5 力を捉える	登場人物の描き方について考える	山椒魚（井伏鱒二）	●読エ 精査・解釈 [言語活動] ウ 書き換え ◆言葉ア 言葉の働き	112～125	読 12
	読みを他の方法で表現する	鞆（安部公房）		126～133	
6 近代の文章の価値を考える	極限の表現に迫る	永訣の朝（宮沢賢治）	●読ウ 精査・解釈 [言語活動] オ アンソロジーと批評 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化・言葉の由来や変化、多様性	136～141	読 12
		参考 アンソロジーを企画する		142～143	
	時代を超えた心情に迫る	たけくらべ（樋口一葉）		144～152	
		参考 近代の文体をたどる 雪の日（樋口一葉） 舞姫（森鷗外） 怪談牡丹灯籠（三遊亭圓朝） 浮雲（二葉亭四迷） 武蔵野（山田美妙） 歌よみに与ふる書（正岡子規） 草枕（夏目漱石）		153～154	
コラム	伏して見る花 細道の井戸		155		
表現プラザ3	読み手を引きつける表現の工夫をする	現代に甦る歌物語 【古典和歌】 君が行く…（狭野弟上娘子） もの思へば…（和泉式部） 天の原…（藤原定家） 大海の…（源実朝） 【近世俳句】 旅人と…（松尾芭蕉） 月天心…（与謝蕪村） たうたうと…（井上士朗） 鳴く猫に…（小林一茶）	○書ウ 考への形成・記述 [言語活動] ウ 翻案作品作成 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化・言葉の由来や変化、多様性	157～161	書 4
		表現の扉をひらく3 大きな段落のほぐし方		162	
7 歴史の語り方について考える	歴史と文学の接点を捉える	鴻門の会—『史記』より (司馬遷／大木康 訳)	●読オ 精査・解釈 [言語活動] イ 論述や討論 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化・言葉の由来や変化、多様性	164～175	読 12
	歴史に基づいた文学作品の読み方を考える	花山天皇の退位—『大鏡』を読む (永井路子)		176～183	
		参考 『栄花物語』—花山院の出家 (編集委員会 訳)		184～186	
	コラム	憧れの物語 独り占め			
表現プラザ4	交流を通して文章を整える	誘惑する書評 【「たけくらべ」の書評】 ちりめんの赤色に映る恋の哀切 (小川洋子)	○書エ 推敲・共有 ◆言葉イ 語彙	189～193	書 4
		表現の扉をひらく4 引用はなんのため？		194	

8 表現の意味を 捉え直す	叙述から心情を想像する	こころ (夏目漱石)		196~221	読 14
	叙述の意味を解釈する	物語もっと深読み教室 (宮川健郎)	●読オ 精査・解釈 ◆言葉ウ 文や文章	222~229	
	語り手の言葉を解釈する	靴の話 (大岡昇平)		230~242	
	コラム	明治時代のスイーツ文豪男子		243	
5 表現プラザ	素材を吟味し、すぐれた表現を追究する	表現の宝さがし ことばの不思議 (穂村弘)	○書ア 題材の設定・情報の 収集・内容の検討 [言語活動] ア 作品創作 ◆言葉エ 表現の技法	245~249	書 4
		表現の扉をひらく5 ことば選びは繊細に		250	
9 言語文化の可能性 を追求する	古典文学を現代の視点から解釈する	竹取物語—かぐや姫の昇天 (森見登美彦 訳)	●読キ 考えの形成・共有 [言語活動] ウ 書き換え エ メディア の比較 ◆言葉ウ 文や文章	252~262	読 14
		参考 マンガ古典文学 竹取物語 (池田理代子)		263~265	
	古典文学に描かれた人間観を捉える	雨月物語—菊花の約 (上田秋成/石川淳 訳)		266~277	
	文学のもつ社会的な広がりを考える	舟を編む (三浦しをん)		278~292	
コラム	ドラマの中の方言はどこにある		293		
6 表現プラザ	五感で感じたことを言語に表現する	言葉でスケッチ 蕨 (ミュシャ)/夜のカフェ・テラス (ゴッホ)	○書エ 推敲・共有 ◆言葉ウ 文や文章	295~299	書 4
		表現の扉をひらく6 自分のなかに「読み手」と「聞き手」をつくる		300	
10 文学の普遍性を探究する	古典文学の魅力を探る	源氏物語—北山の垣間見 (紫式部/角田光代 訳)	●読オ 精査・解釈 カ・キ考 えの形成・共有 [言語活動] カ 短い論文 ○書イ 構成の検討 エ推敲・ 共有 ◆言語文化ア 伝統的な言語 文化・言葉の由来や変化、 多様性 イ 読書	302~311	読 12 + 書 6
	文学から世界への見方を深める	「虫めづる姫君」の観察眼 (中村桂子)		312~321	
		参考 堤中納言物語—「虫好きのお姫様」 (中島京子 訳)		322~323	
	異文化との交流の意義について考えを深める	卵を抱きながら。もしくは、くせになる翻訳。(松永美穂)		324~329	
	言葉を通してつながることについて考える	ここではないどこかへの扉 (穂村弘)		330~331	
目的に応じて自分の考えを文章にまとめる	小論文を書く (調査・研究型/意見・主張型/企画・提案型)	332~339			
読書案内		二回目からの読書 (蜂飼耳)	◆言語文化イ 読書	24	適 宜
		「これはなんだ!」 (青山七恵)		50	
		好きなように読んだ。(松田青子)		102	
		自分探しより本探し (大木康)		188	
		新しい言葉に出会う楽しみ (中村桂子)		340	
ブックガイド	(単元に関連した読書案内)	◆言語文化イ 読書	78, 134, 156, 244, 294	適 宜	
資料編	物語・小説読み解きツール	①語り手/②構成・展開/③場面設定/④ 転換点/⑤伏線/⑥キーアイテム/⑦人物 造形/⑧役割語/⑨人物相関図/⑩感情表 現/⑪象徴・暗示/⑫背景	◎国語科の学習を効果的に 進める上で役立つ知識及び 技能を整理して示し、国語 に対する認識を深め、国語 を尊重する態度の育成を 図っている。	342~347	適 宜
	探究のためのブックガイド	詩歌・エッセイ・評論/現代文学・古典文学 /翻訳/書く		348~351	